

京都市京セラ美術館

Kyoto City KYOCERA Museum of Art



2020年3月21日  
「京都市京セラ美術館」として  
リニューアルオープン

建築家青木淳・西澤徹夫による、  
壮麗な歴史的美術館建築の  
画期的大規模リノベーション！  
京都の文化・芸術の歴史に、  
新たな1ページが加わります

2019.4.9.  
京都市京セラ美術館 プレスリリース

# CONTENTS

Kyoto City KYOCERA Museum of Art  
RENEWAL PRESS RELEASE

p01	ごあいさつ
p02	沿革
p06	建築について
p12	生まれ変わる美術館の新しい事業概要
p14	アクセス

# Kyoto City KYOCERA Museum of Art

## ごあいさつ

ようやく「京都市京セラ美術館」としてのリニューアルの一端を皆様にご報告できる日をむかえました。

当館は1933年（昭和8年）、京都における近代化の象徴ともいえる岡崎の地に、財界や美術界、多くの市民の皆様のご協力を得て「大礼記念京都美術館」として開館し、第二次世界大戦後には「京都市美術館」として活動してまいりました。

開館以来、85年間、今や現存する日本で最も古い公立美術館建築として、東山を背景にした壮麗な外観で愛されてきております。

この度当館は、建築家青木淳氏、西澤徹夫氏の革新的な構想に基づき、竣工当時の建築様式や外観を活かしながら現代的な機構を加えることで、清新なイメージのもと、「故」と「新」の位相が融合する、新しい美術館として生まれ変わります。

今回のリニューアル事業は、老朽化をはじめとした諸課題の解決と、本館が将来的に国の文化財に登録されることを目標に、歴史的建築を可能な限り保存したうえで、現代の美術館として求められる機能を整備します。これにより、保存・継承・活用を同時に実現させ、世界の人々を魅了する美術館となることを目指しております。

本日は皆さまに、2020年春に予定しているリニューアルオープンに向けて、いち早くその建築の全貌をご紹介いたしたく、お集まりいただきました。

宜しく願い申し上げます。

京都市京セラ美術館

# 沿革

Kyoto City KYOCERA Museum of Art  
RENEWAL PRESS RELEASE

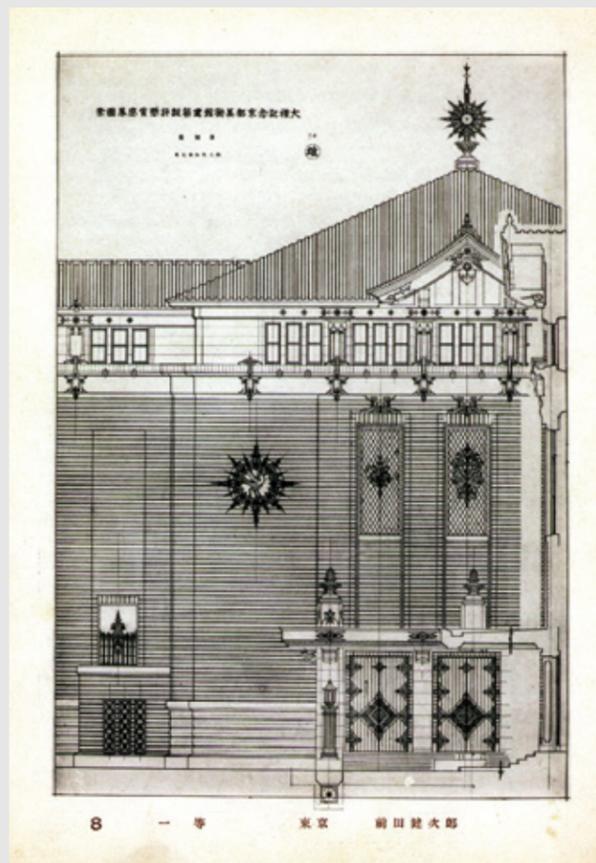
## オープンからの歩み

- 1933年(昭和8年) 1928年(昭和3年)に京都で挙行された即位の大礼を記念し、「大礼記念京都美術館」として開館。関西の財界や美術界、市民の寄付により、鉄骨鉄筋コンクリート2階建ての帝冠様式建築の本館が建設された。設計は、「建築様式ハ四囲ノ環境ニ応ジ日本趣味ヲ基調トスルコト」などの要件の公募によって選ばれた建築家、前田健二郎(\*注1)。こけら落としの展覧会は「第14回帝展京都陳列会」。
- 1934年(昭和9年) 開館記念として、全国の美術家や工芸家に出品委嘱した「大礼記念京都美術館美術展」(出品総数876点)を開催。開館を祝して、大礼奉祝会から多数の作品が寄贈された。
- 1935年(昭和10年) 全国に先駆けて、市主催の総合公募展として「京都市美術展覧会」(第1回市展)を開催。
- 1944年(昭和19年) 第二次世界大戦中も美術館活動は継続していたが、本土空襲を受け、重要な作品の一部を嵯峨・大覚寺などに疎開。
- 1945年(昭和20年) 「第9回在住作家作品常設展」を開催中に終戦。戦後まもなく「第1回京都市主催美術展」(第1回京展)を開催。
- 1946年(昭和21年) 戦後、駐留軍により本館を含めた敷地全体が接収。大陳列室はバスケットボールのコートに。
- 1952年(昭和27年) 6年におよぶ接収が解除。「京都市美術館」と改称し新たなスタートを切る。京都画壇10作家の代表作による「開館記念京都名作展」を開催。
- 1955年(昭和30年) 海外展の先駆けとして、「ルーヴル国立美術館所蔵フランス美術展」が巡回。
- 1957年(昭和32年) 京都の若い美術家たちが開始した「京都アンデバンダン展」がこの年から京都市主催となり、現代美術の育成を図るため1991年(平成3年)まで毎年開催された。
- 1964年(昭和39年) 「ミロのヴィーナス特別公開」では89万人余りが来場し、開館以来の入場者数記録を更新。
- 1965年(昭和40年) 「ツタンカーメン展」開催。107万人余りが来場し、入場者数記録を再び更新。
- 1967年(昭和42年) 特別展「京都の美術工芸100年展」開催。
- 1971年(昭和46年) 川崎清(\*注2)設計による収蔵棟を新設。竣工記念特別展「京都日本画の精華」開催。
- 2000年(平成12年) 京都市美術館別館開館。
- 2003年(平成15年) 開館70周年。記念特別展「うるわしの京都 いとしの美術館」開催。
- 2013年(平成25年) 開館80周年。記念特別展「市展・京展物語」「下絵を読み解く ～竹内栖鳳の下絵と素描～」開催。
- 2015年(平成27年) 「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015」開催。(当館をはじめ京都文化博物館など京都市内計8箇所が会場に)

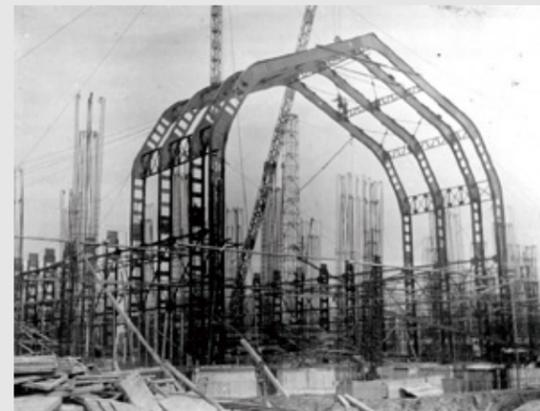
\*注1 前田健二郎(1892-1975):東京美術学校出身の建築家。通信省に勤務。戦前から戦後にかけて多数の建築を設計した。日本芸術院賞受賞。紫綬褒章、勲二等瑞宝章受章。

\*注2 川崎清(1932-2018):建築家、京都大学名誉教授。京都における作品に「京都市勧業館みやこめっせ」、「相国寺承天閣美術館」などがある。JR京都駅の国際設計コンペ審査員長を務めた。

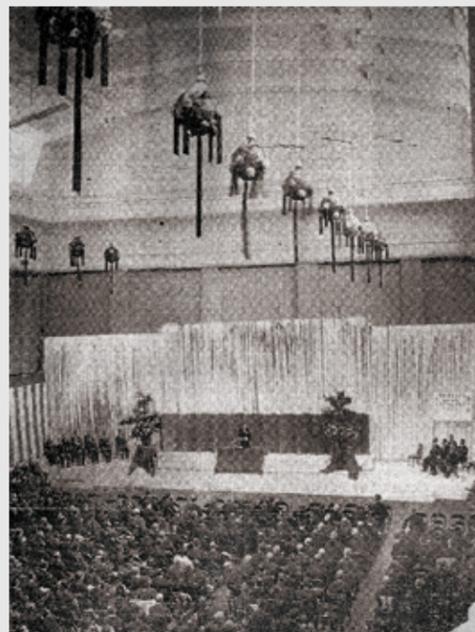
# Kyoto City KYOCERA Museum of Art



前田健二郎 立面詳細図



建設工事の様子



竣工式の様子



創建当時の本館正面

# 沿革

Kyoto City KYOCERA Museum of Art  
RENEWAL PRESS RELEASE

## リニューアルへ向けて

- 2014年(平成26年) 開館80周年を機に「京都市美術館将来構想」を策定。
- 2015年(平成27年) リニューアルの方向性を示す「京都市美術館再整備基本計画」策定。公募型プロポーザルにより、19の応募者から青木淳・西澤徹夫設計共同体が1位で基本設計作成者に選出される。
- 2017年(平成29年) 市民負担を抑えつつ、多くの人に長年待望されていたリニューアル事業を推進するために、ネーミングライツを導入。事業の主旨に賛同された、京セラ株式会社が約50億円を負担し、通称を「京都市京セラ美術館」とする50年間のネーミングライツ契約を締結。同年、改修・増築工事のため一時閉館。
- 2018年(平成30年) 1月に工事着工。

## これからのスケジュール

- NOW ● 2019年4月 建築概要の発表。
- 2019年春 カフェ、ミュージアムショップなどの事業者決定。
- 2019年9月 リニューアル初年度の展覧会をはじめとするプログラムラインナップを発表予定。
- 2019年10月末 竣工予定。順次プレイベントを開催予定。
- 2020年3月21日 リニューアルオープン予定。
- 2023年 開館90周年。
- 2033年 開館100周年。



現在の建物正面の様子 撮影：八木夕菜

# 建築について

Kyoto City KYOCERA Museum of Art  
RENEWAL PRESS RELEASE

## 像を重ねていく美術館

青木 淳

京都市美術館本館は、現存する日本の公立美術館の中でもっとも古い建築です。創建は1933年、いわゆる帝冠様式を代表する建築で、以来、第二次世界大戦をまたいで80年余り、京都市民をはじめ多くの人の記憶に深く刻み込まれてきました。

建築そのものは動かず、変わりません。しかし、それを見、経験する人々が心に写しとるその像は、時とともに変化していきます。建築とはこうして、多重露光された像が幾重にも折り重なり、豊かな<sup>ひだ</sup>襞がつくられていくものです。そのことを大事にしつつ、それを現代に生きる空間として整備しなおそうとする試みは、今後、ますます重要なこととなっていくと思われまます。今回の京都市美術館の大規模な改修は、その点で大きな意義と責任を持っていることを痛感しています。

この計画を進めるにあたって私たちは、すでにこれまでに重なってきた像の層を引き継ぎ、そこに新たな一枚の像を加えようと思いました。そうすることで、この建築を守りながらも、そこに別の様相を出現させられないか、と考えたのです。

なかでも大事にしたのは、西側・神宮道側の前広場を広場として残すことと、この建築がもともと持っている西玄関から東玄関を貫く軸線を強めることでした。

まず西側・前広場と本館建築の間に切り込みを入れ、手前の中央を押し下げ、前広場をごく緩い傾斜で中央に向かって下るスロープ状の広場に変えました。このことにより、神宮道からの本館の景を変

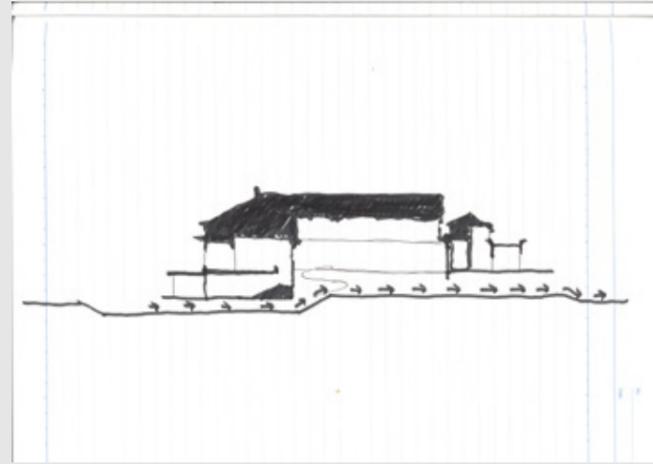
えないままに、エントランスを1階西玄関からその地下に移しました。広げられた切り込みにはガラスを嵌め、新たな空間「ガラス・リボン」を生みだし、ミュージアム・ショップやカフェの用にあてました。

地下エントランスを直進し、かつては「下足室」として使用されていた空間を通り抜けたところには大階段を新設し、中央ホール（旧大陳列室）、東玄関、さらにその先の東山を望む日本庭園までにつながる一直線に伸びる強い軸線空間を挿入しました。この美術館に埋め込まれていた軸性を引き出そうとしました。

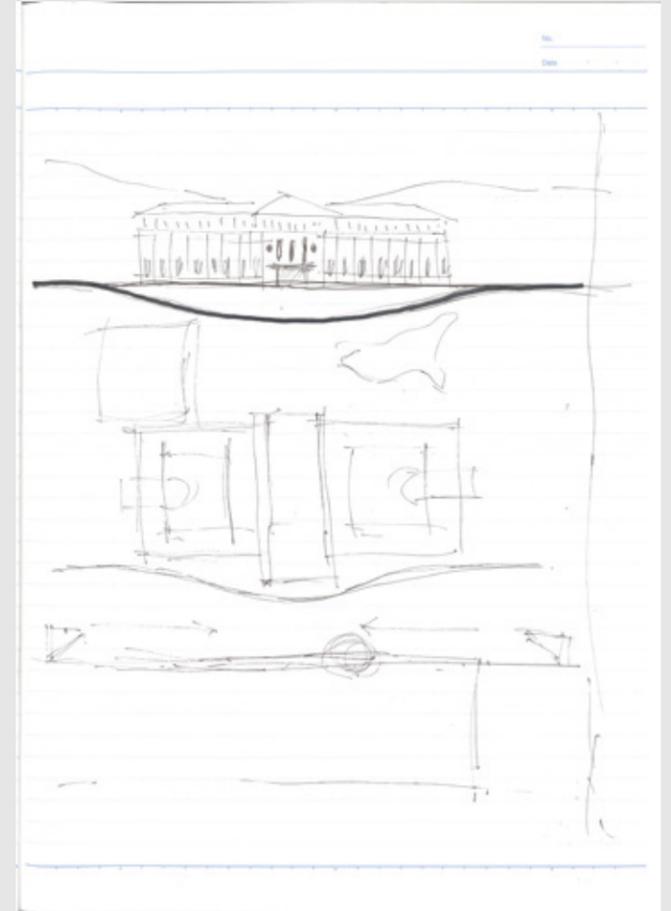
またこれまで南北2つの中庭を占領していた設備機器を廃し、南中庭を本来の中庭に戻す一方で、北中庭にガラス屋根を懸け室内化しました。ここでも、いつしか隠されてしまっていたこの美術館の可能性を発掘しようと思いました。

全館のための設備機器置き場として、また現代美術に対応する新たな展示室を新設するために、美術館北東に位置する川崎清氏設計による増築部「収蔵棟」を新館に改築しました。大きなボリュームで出現する新館は、煉瓦タイルの本館の特性をある位相では引き継ぎ、またある位相では切断し、付かず離れずの関係に置こうとしました。

こうして私たちは、新旧の対比を生み出すことを目指す改修とはまったく異なる、より繊細なもうひとつの改修の道を築こうとしてきました。



青木 淳によるスケッチ



青木 淳によるスケッチ

## 基本設計者 プロフィール



青木 淳 Aoki Jun

建築家。1956年神奈川県生まれ。東京大学工学部建築学修士修了。磯崎新アトリエ勤務を経て、1991年に独立し、青木淳建築計画事務所を設立。代表作に、「馬見原橋」（くまもと景観賞）、「S」（吉岡賞）、「湯博物館」（日本建築学会賞作品賞）、「ルイ・ヴィトン表参道」（BCS賞）、「青森県立美術館」、「大宮前体育館」、「三次市民ホールきりり」など。公共建築、商業建築から個人住宅まで、広範な建築ジャンルでの設計のほか、美術家としてインスタレーション作品の制作など、ジャンルをまたいでの活動を行なっている。2005年芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。



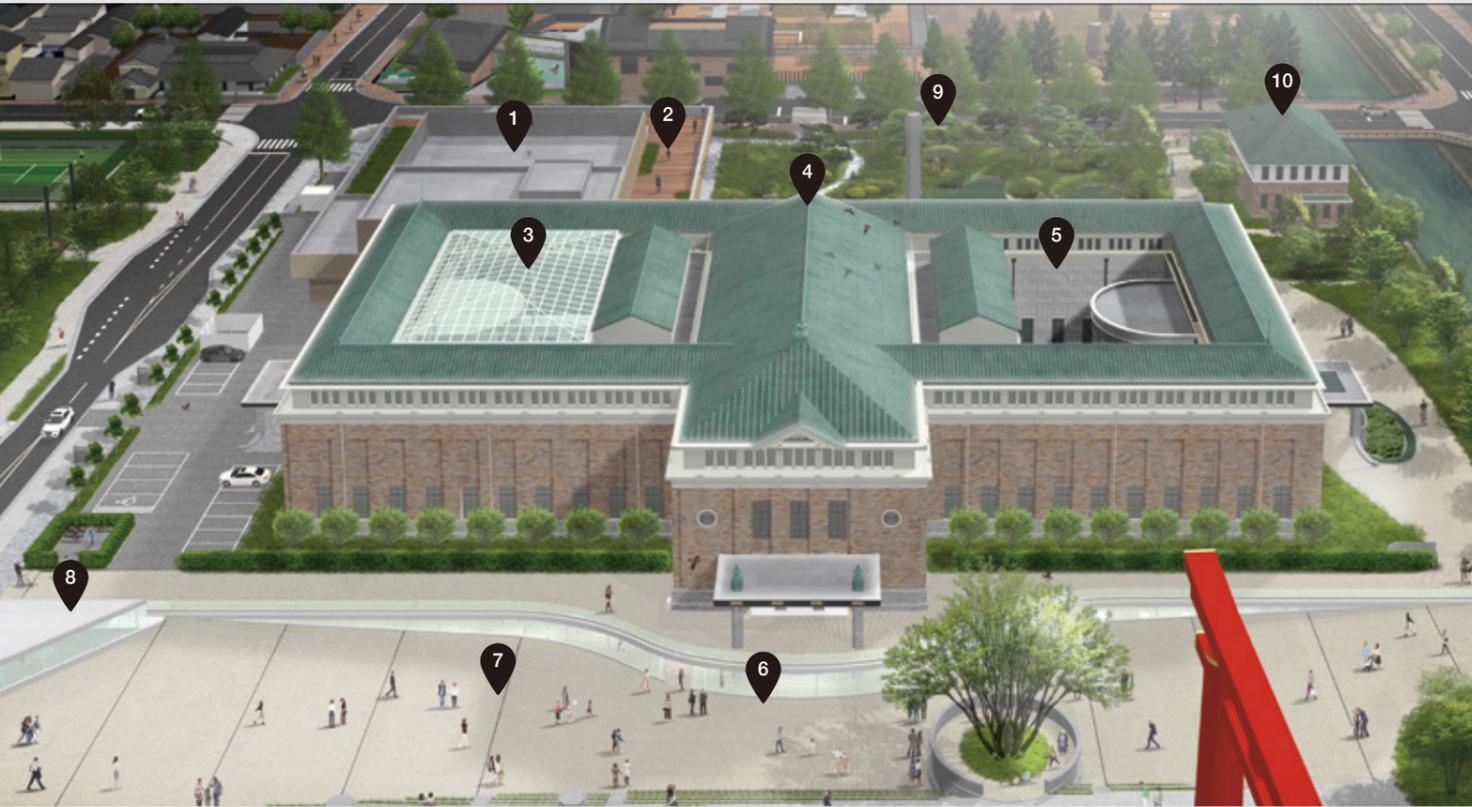
西澤徹夫 Nishizawa Tezzo

建築家。1974年京都府生まれ。東京藝術大学美術学部美術研究科建築専攻修了。青木淳建築計画事務所を経て、2007年に独立。代表作に、「ルイ・ヴィトン松屋銀座店」改修、「青森県立美術館」（以上、青木淳建築計画事務所）、「東京国立近代美術館所蔵品ギャラリー」リニューアル、「八戸市新美術館」があるほか、住宅建築やリノベーションなども手がける。また、「ビデオを待ちながら」、「パウル・クレー展」、「Re:play展」（以上、東京国立近代美術館）など、展覧会会場デザインも多数。

# 建築について

Kyoto City KYOCERA Museum of Art  
RENEWAL PRESS RELEASE

## 建築・空間の魅力



- ① 東山キューブ
- ② 東山キューブテラス
- ③ 光の広間
- ④ 中央ホール
- ⑤ 天の中庭
- ⑥ メインエントランス
- ⑦ 京セラスクエア
- ⑧ 北西エントランス、ザ・トライアングル
- ⑨ 日本庭園
- ⑩ 桜水館※

※本館と同じ時期に建設された2階建の洋館。外観を生かしたまま文化的要素を有するレストラン施設に改修予定。

# Kyoto City KYOCERA Museum of Art

## 京セラスクエア

### 回遊と交流を生み出すスロープ状の広場

7

様々な文化・歴史資源と水や緑豊かなオープンスペースが集積した京都随一の文化・交流ゾーンである岡崎。美術館正面に誕生するスロープ状の広場「京セラスクエア」は、岡崎を訪れる人々の回遊と交流を作り出すランドスケープとして、日常的な憩いの空間となるとともに、アート作品の展示やパフォーマンス、イベントなどの屋外活動を行うことが可能で、常に人々が集い賑わう空間です。

夜には本館のファサードがライトアップされ、歴史が積み重ねられた京都にふさわしい壮麗な風景が現れます。「京セラスクエア」全体を使った大掛かりなイベント時などでは、観客は緩い傾斜面に座って自然に本館ファサードを向くことになり、美術館と広場が一体となって臨場感あふれる空間となるでしょう。



## ガラス・リボン

### 美術館の新たな顔となる現代的な意匠

6

「京セラスクエア」の正面、本館地下1階部分には、本リニューアル事業の一番のシンボルとも言えるファサード＝「ガラス・リボン」が挿入されます。この透明で軽やかな流線型の意匠は、歴史的建築との美しい融合を見せるだけでなく、メインエントランスやミュージアムショップ、カフェといった美術館の内と外とを繋ぐ場として機能します。美術館内の賑わいが「ガラス・リボン」を通して岡崎のまちへと広がっていきます。

# 建築について

Kyoto City KYOCERA Museum of Art  
RENEWAL PRESS RELEASE



## 東山キューブ

### 現代アートに対応する高機能な最新設備を備えた展示スペース

敷地の北東には、面積約1,000㎡、天井高5mの現代アート展示室と収蔵庫、バックオフィス、屋上庭園を備えた「東山キューブ」を新設します。様々な表現に対応する高機能な最新設備を備えた展示空間では、現代アートのほか、アニメーションやコミック、ファッション、建築、デザインなど、現代の文化芸術シーンを紹介します。また、屋上庭園「東山キューブテラス」からは、雄大な東山を望むことができます。



## ザ・トライアングル

### 新進作家のためのスペースが新設

敷地の北西の角の地下1階には、新進作家を中心に発信するスペース「ザ・トライアングル」を新設します。地上部分の形状が三角形であること、また、「作家・美術館・世界（鑑賞者）」の3者を結ぶ拠点となることから「ザ・トライアングル」と名付けました。この軽やかな三角形を通して様々なアート作品がまちへと発信されます。

地上からも、地下1階からもアクセスが可能です。

# Kyoto City KYOCERA Museum of Art



## 本館 南回廊・北回廊

### 歴史的空間で国内外の多彩な美術を体感

開館以来、長く親しまれた本館は、歴史的建築の意匠を可能な限り保存しつつ、設備をアップデートして生まれ変わります。

「南回廊」1階では、収蔵品を展示する常設展示室（約1,000㎡）を新設。コレクションから季節に合わせた選りすぐりの作品を展示し、京都画壇の名品などをいつでも鑑賞できます。「南回廊」2階は、創建当初の意匠をそのままに、自然光のもと美術鑑賞ができる空間となります。

また、「南回廊」2階と併せて「北回廊」では、歴史と伝統を誇る重厚な美術館空間を活かし、国内外の様々な美術にふれることのできる自主企画展やメディア・他の美術館と共催する特別展、国際巡回展、美術団体による公募展などを開催します。

## 本館 中央ホール

### 来館者を迎える明るく多機能な大空間

今回のリノベーションにより、本館の中心に位置する天井高16mの旧大陳列室は、地下1階メインエントランスのロビーから大階段によってつながる「中央ホール」へと大幅に機能が変わります。

地下1階から2階への3フロアや「北回廊」と「南回廊」、「東山キューブ」や「日本庭園」を自由に往来できるハブになるとともに、天井から作品などを吊り下げて展示できる機構やバルコニー、らせん階段などが賑やかな人々の行き来を加速させます。また、MICE\* やレセプションの開催などにも適しています。

\*MICE: meeting, incentive tour, convention, exhibition/eventなど会議やイベントの略称。



## 本館 光の広間・天の中庭

### 非公開だった2つの中庭に新たな魅力をプラス

これまで使われていなかった本館内2箇所の中庭は、竣工当時の意匠を生かした多機能な大空間として生まれ変わります。北回廊の中庭「光の広間」は2階レベルにバルコニーを設け、ガラスの大屋根をかけます。光が差し込む室内空間化することで、レセプション・イベントの会場、特別作品の展示スペースなどとして、フレキシブルに活用することが可能となりました。

南回廊の中庭「天の中庭」は、新鮮な外の空気に触れられるオープンでリラックスした空間となり、収蔵作品の展示スペース、ワークショップなどにも活用します。



# 生まれ変わる美術館の新しい事業概要

Kyoto City KYOCERA Museum of Art  
RENEWAL PRESS RELEASE

## Feature 01

### 京都に新たに誕生する、 現代の表現に焦点を当てた「東山キューブ」

多数の芸術大学があり、国内外で活躍する作家を多数輩出してきた京都に待ち望まれた、美術館での本格的な現代アート展示室がついに誕生します。新館「東山キューブ」は多様化する今日の表現形態に対応できる高機能な設備を備え、現代アートを中心に様々なジャンルの作品を紹介し、発信します。このほか「ザ・トライアングル」などのスペースにおいても、現代アートを展示、紹介していきます。



ウィリアム・ケントリッジ《時間の抵抗》(2014) 展示風景 写真：四方邦熙 提供：京都国際現代芸術祭組織委員会事務局 (PARASOPHIA事務局) © William Kentridge

## Feature 02

### 京都の四季とともに名品と出会える、 常設コレクション展示室を新設

当館は近代以降の京都の美術の総合的なコレクション（日本画、洋画、彫刻、版画、工芸、書）を収蔵しており、特に近代日本画を代表する京都画壇の作品は自他ともに認める優れた内容です。リニューアルオープン後は、南回廊1階にて、所蔵品の中から選りすぐられた作品で四季折々に展示替えを行い、京都や日本の文化・魅力を常に肌で感じていただけます。



重要文化財 竹内栖鳳《絵になる最初》1913年



中村大三郎《ピアノ》1926年

# Kyoto City KYOCERA Museum of Art

## Feature 03

### 「寛ぎ」と「楽しみ」にあふれる 岡崎の新しいデスティネーション

新設された地下1階のカフェやミュージアムショップ、「東山キューブテラス」、「中央ホール」、「京セラスクエア」のほか、七代目小川治兵衛が作庭に関わったとされる「日本庭園」は寛ぎと楽しみ場として誰にでも開かれたスペースです。折々に様々な音楽・光・アートのイベントなどを開催することで、驚きやワクワクを来館者へ提供していきます。



イメージ図



イメージ図

## Feature 04

### 支援の輪を広げて 美術館の魅力在未来へ

ネーミングライツによる京セラ株式会社からの支援を受けリニューアルした美術館を、未来に向け継承・発展させていくためには、今後も個人や法人の皆さまからのご寄付やご支援が必要です。ふるさと納税などの寄付制度を利用し、多様な窓口を設けて美術館を支援する輪を広げていきます。また、より多くの方が美術館を身近な存在としてさらに楽しめるよう、「美術館友の会」は内容の充実が図られます。

## Feature 05

### MICEのユニークベニューとして、 交流・社交の華やかな舞台に

和と洋、レトロとコンテンポラリーが融合する、他に類を見ない建物は、伝統を守りつつ多様な価値を受け入れてきた京都ならではの特別感を演出できるMICEの会場になります。美術館＝美術鑑賞をする場という枠を超え、国際会議などの受け入れを通じて、京都市京セラ美術館を人々の交流・社交の場として機能させるとともに、京都、日本の魅力も発信していきます。



イメージ図

# アクセス

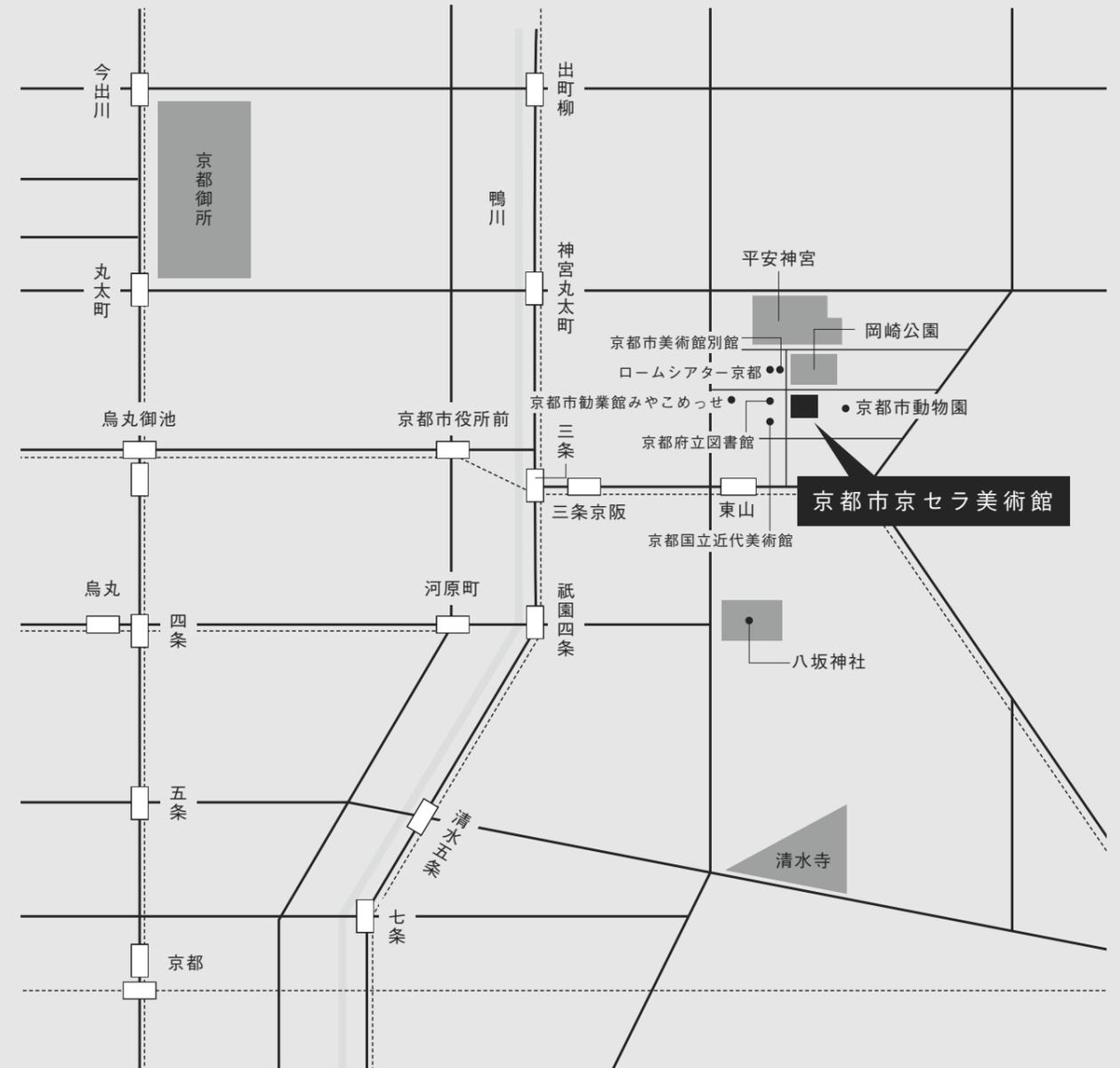
Kyoto City KYOCERA Museum of Art  
RENEWAL PRESS RELEASE

## 敷地内配置図



# Kyoto City KYOCERA Museum of Art

## エリア情報



### 電車

- ・地下鉄東西線「東山駅」より徒歩約8分
- ・京阪電鉄「三条駅」・市営地下鉄「三条京阪駅」より徒歩約16分

### 市バス

- ・「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ
- ・「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩約5分
- ・「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ



Kyoto City KYOCERA Museum of Art

京都市京セラ美術館  
Kyoto City KYOCERA Museum of Art

公式サイト・SNS

Website [www.kyotocity-kyocera.museum](http://www.kyotocity-kyocera.museum)  
Instagram [kyotocitykyoceramuseum](https://www.instagram.com/kyotocitykyoceramuseum)  
Youtube [kyotocitykyoceramuseum](https://www.youtube.com/kyotocitykyoceramuseum)

お問い合わせ

京都市京セラ美術館 広報  
京都市左京区円勝寺町 124  
TEL: 075-275-4271  
MAIL: [pr@kyoto-museum.jp](mailto:pr@kyoto-museum.jp)



京都市京セラ美術館  
Kyoto City KYOCERA Museum of Art

## 京都市美術館美術品収集方針

日本文化の創造と継承の中心地である京都における近代以降の美術<sup>※1</sup>を展望できる総合的なコレクション<sup>※2</sup>を、世界的な視野に立って形成するために必要な作家の作品及び資料を計画的に継続して収集する。

1. 近代以降の美術において重要な位置を占める作家の作品及び資料を収集する。
2. 現代の美術において新たな展開を見せる作家の作品及び資料を収集する。
3. 近代以降の美術に有意義な関連のある国内及び海外の作家の作品及び資料を収集する。
4. 主要な作家については、作風の変遷を見ることができるよう、各時期の作品を収集する。
5. 上記の作品及び資料について、長期的な計画に従って毎年継続して収集する。

※1 明治以降から現在までの美術を意味するが、近代の美術の形成に影響を与えた江戸期の美術まで遡及するものとする。

※2 既存の部門（日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書）だけでなく、新たな分野（写真、映像など）の作品も対象とする。

2018年11月14日 決定



西山翠嶂〈権花〉1923年



上村松園〈待月〉1926年



浅井 忠〈グレーの柳〉1901年



木島桜谷〈寒月〉1912年

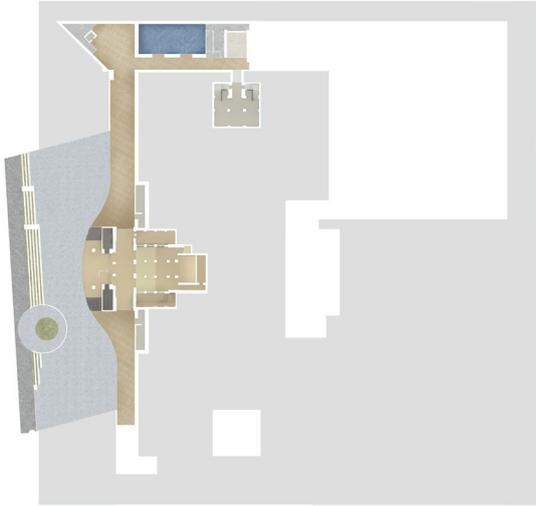
# Kyoto City KYOCERA Museum of Art

2019.4.9 京都市京セラ美術館プレスリリース 別添資料 2

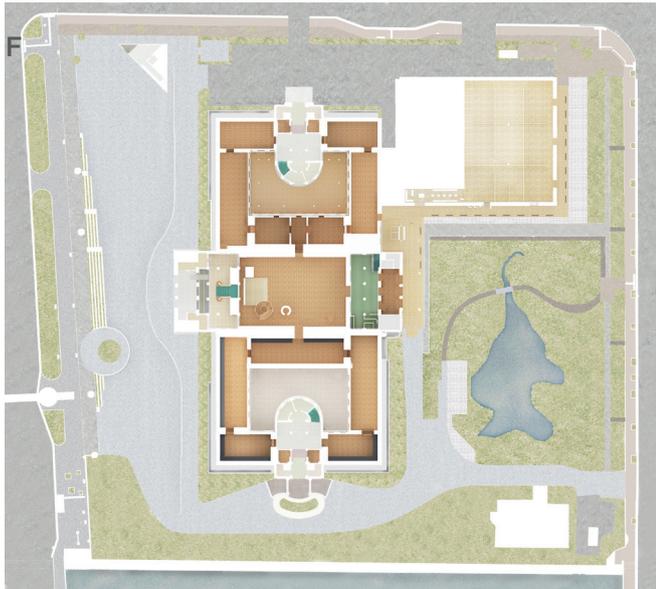
## 建物詳細

### 平面図

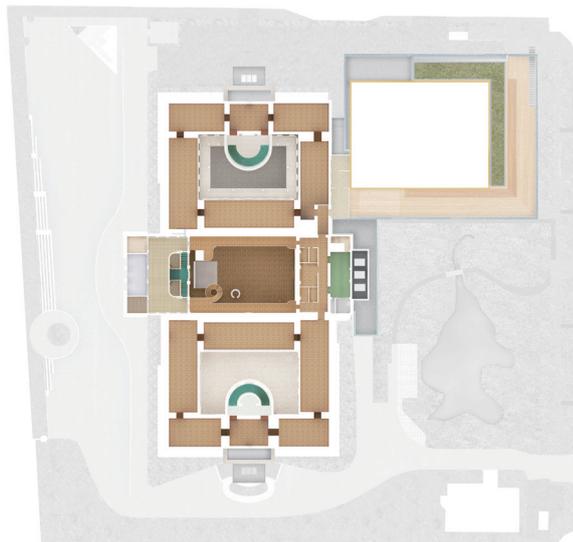
B1



1F



2F



### 建築概要

計画概要	本館 (既存棟)	新館 (増築棟)	桜水館 (既存棟)
工事名称	京都市美術館再整備事業		
所在地	京都市左京区岡崎円勝寺町 124 番地		
発注者	京都市		
敷地面積	25,383.71㎡		
建築面積	8,482.41㎡		
延床面積 (総面積)	19,495.17㎡		
用途	美術館	美術館、店舗	レストラン
基本設計者	青木淳・西澤徹夫設計共同体		未定
実施設計者	株式会社松村組・株式会社昭和設計		未定
施工者	株式会社松村組		未定
延床面積	9,334.17㎡	9,403.75㎡	757.25㎡
構造	鉄筋コンクリート造、 一部鉄筋鉄骨コンクリート造、鉄骨造	鉄骨造、 一部鉄筋コンクリート造	木造、 一部鉄筋コンクリート造
階数	地上2階、地下1階	地上2階、地下1階	地上2階、地下1階
建物高さ (最高高さ)	22.23 m	12.36 m	11.6 m

施設面積 / 天井高		用途	面積	天井高
展示室総面積			5,240.49㎡	
各展示室	北回廊 1 階 陳列室	企画展示室	7 室 1,003.47㎡	3.75m
	北回廊 2 階 陳列室	企画展示室	6 室 1,128.38㎡	6.4m
	南回廊 1 階 陳列室	常設展示室	5 室 1,028.95㎡	3.725m
	南回廊 2 階 陳列室	企画展示室	6 室 1,040.69㎡	9.2m
	東山キューブ 1 階 展示室	企画展示室	972.15㎡	5.0m
	ザ・トライアングル	企画展示室	66.85㎡	2.98m
その他	収蔵庫		1,575.18㎡	
	講演室		193.22㎡	
	中央ホール (旧大陳列室)		732.26㎡	
	光の広間		445.88㎡	
	カフェ		233.58㎡	
	ショップ		158.37㎡	
	桜水館	レストラン	757.25㎡	
外構	京セラスクエア	スロープ広場	2,822.93㎡	
	東山キューブテラス	屋上庭園	847.95㎡	
	日本庭園		3,407.17㎡	

※いずれも概数

### 参考：改修前平面図

